

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜トヨペット相模原中央店	階数	地上2F
建設地	相模原市中央区東淵野辺4丁目220	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	25人
気候区分	地域区分	年間使用時間	3,200時間/年
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月 予定	評価の実施日	2013年4月26日
敷地面積	3,229 m ²	作成者	(株)深沢義昭設計事務所
建築面積	2,129 m ²	確認日	2013年4月26日
延床面積	2,231 m ²	確認者	(株)深沢義昭設計事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
参照値: 100%
建築物の取組み: 92%
上記+: 92%
上記+: 92%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.2**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>・近隣への環境悪化を生じさせないことを主眼とし、最大限の配慮をすることを第一として設計をすすめた。また、将来的には太陽光発電パネルの設置が可能なようにパラペットの形状を工夫し段階的な地球環境への負荷軽減ができるような設計とした</p>	<p>・北側の住居側に夜間の敷地内通行車両の照明があたりないようにスロープの入口部の手摺壁を通常より高くする計画とした。</p>
<p>Q1 室内環境 ・昼光を最大限取り入れる計画とする一方、ペリメーターゾーンと商談スペースとの空調設定温度を調整し、快適な室内環境を確保した</p>	<p>Q2 サービス性能 ・店舗内の快適な環境を保持するために清掃作業が負担とならないような材料を選定するとともに、SK室を客用便所付近に配置した。</p>
<p>LR1 エネルギー ・用途上大型のガラスに覆われた建物となるため、ショールームまわりの大型サッシには断熱フィルムを施工し、一面はピロティとすることで空調負荷の軽減を狙った</p>	<p>LR2 資源・マテリアル ・仕上げ材はすべて解体が容易な材料及び工法とした。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内) ・歩行者に圧迫感を与えるような高さや色、外観の色合いも華やかな色は避け、落ち着いたシンプルなデザインを採用した。また、敷地内の余剰スペースはすべて緑地とし、景観及び温暖化環境の向上を狙った</p>
	<p>LR3 敷地外環境 ・建物の用途上、車両の出入りは頻繁に行われるため、出入口を2か所設けることで周辺道路の交通負荷を抑制し、また大型の車両積載車もスムーズに敷地内に入ることができる切下げ巾を確保することで前面道路の渋滞を招かない計画とした</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される